

市区町村名	北海道 下川町	担当部署	保健福祉課
		電話番号	01655-4-2511

1 取組事例名

- ・ I Tを活用した高齢者見守りシステム

2 取組期間

- ・ 平成25年度～

3 取組概要

- ・ システム導入当時は、デジタル技術を使った高齢者の見守りシステムが普及しておらず、システム導入前は、行政及び地域の方々による高齢者の見守りを行っていましたが、人による見守りにも限界があることから、今回の取組を行いました。
- ・ 平成23年度に町が整備した地域情報通信基盤(F T T H)を活用し、ひとり暮らしの高齢者宅の寝室・居間・玄関等に安否センサーを設置し、起床、就寝、外出等の行動を感知することで、行政にあるサーバによる見守りを行うシステムであります。また同システムは、ガスセンサー・熱センサーによる火事やガス漏れ等も感知し消防に通報するとともに、高齢者が緊急時にはペンダントによる緊急連絡ができ、地域の方々の見守りに加え、インターネット回線を活用した自宅での見守りを行い、高齢者が安心して生活できるシステムであります。

4 背景・目的

- ・ 高齢者が自宅及び家の周辺で倒れ、発見が遅くなり孤独死となるケースが年数件発生していました。また、時間が経過して周りの方が気づき緊急搬送されるケースも多く発生していました。
- ・ 本町では、高齢者の親族はほとんど町外にいる方が多く、当時、高齢者の見守りは、行政及び地域住民により行っておりましたが、自宅の中の見守りについては限界があり、自宅等で倒れても、短い時間で発見することが難しい状況にありました。
- ・ そのことから、高齢者の孤独死をなくすこと。自宅等倒れても早期発見を目的に、すでに総務省の「地域情報通信基盤整備推進交付金」で、町内全戸に I R U光ケーブル網が整備され、その光ケーブルを活用し、高齢者宅と役場を繋ぎ、 I Tを活用した高齢者見回りシステムを構築しました。

5 取組の具体的内容

- ・ひとり暮らしの高齢者宅に、居間・寝室・玄関に安否センサーと熱センサー、ガスセンサー、IP版緊急通報端末を設置。
- ・各センサーは、IP版緊急通報端末を経由し、IRU光ケーブルにより、役場にあるサーバに緊急通報情報が入り、役場保健福祉課・消防・社会福祉協議会にあるPC端末に緊急通報情報が発報される仕組みであります。
- ・室内に設置している安否センサーは長時間高齢者が動けなくなったり、ガス漏れや火事を検知した場合、役場保健福祉課・消防・社会福祉協議会にあるPC端末に通報する仕組みとなっております。また玄関の安否センサーにより、外出したことを認識しITにより、通報の判断を行っております。
- ・IP緊急通報端末とペンダントには、緊急ボタンがあり、押すと消防に通報が入り、速やかに救急搬送の対応が可能となっております。
- ・通報が入った場合、日中の平日は社会福祉協議会(見守りを委託)で安否を確認するとともに、近所にお住まい緊急連絡員(2名配置)にも協力していただき、安否等の確認をお願いしております。また、夜と休日の対応については消防が対応しております。

6 特徴(独自性・新規性・工夫した点)

- ・本町は、平成23年に総務省の「地域情報通信基盤整備推進交付金」を活用して、地デジの難視聴地域の解消、下川町にインターネット回線網の整備、全戸にテレビ電話端末を整備しました。この時に町内全域にIRU光ケーブル網が整備されたことから、この光ケーブルを活用して高齢者宅と役場・消防を繋ぎシステムの構築を行ったことから、高齢者宅と役場間の光ケーブルの回線工事費の削減と新規設置者の光ケーブル工事が不要となりました。
- ・通常このシステムは安否センサーとペンダントの組み合わせが一般的でしたが、火災等の通報が必要なことから、既存に販売されている熱センサーとガスセンサーと接続可能であることが確認できたことから、ガス漏れや火事等の早期発見できるようシステムを構築しました。
- ・機器の選定において、高齢者が簡単に使える機種を選定し、設置時に使用方法を説明し、理解して頂いているところであります。

7 取組の効果・費用

- ・システム導入により、孤独死がほとんどなくなり、体調が急変しても短時間で救急搬送されひとり暮らしの高齢者も住み慣れた自宅で安心して生活できるようになりました。
- ・費用
導入当初、サーバ・システム・端末・センサー導入費一式 19,420千円
毎年、システム保守・サーバ使用料・見守事業委託 5,690千円

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- ・システム導入時は、インターネットが普及し始めた頃で、情報も今ほど多くなく、企業からの提案や先進地の視察等により、情報収集を行い、システム構築をしました。
- ・高齢者の一人一人の生活リズムが違うことから、標準の通報の設定では、誤作動を起こすこともあり、対象者の生活リズムに合わせて通報の設定を行いました。
- ・導入から9年目となり、機器及びセンサー等の老朽化、特にバッテリーの性能が低下し、寒冷地の下川町では、気温が低下するとバッテリーの性能の低下から、故障のアラームの発生が多くなってきており、その都度確認を行って対応しております。
- ・今後老朽化したシステムの更新が必要であり、更新には多額の費用が予想されることから更新費用を抑えつつ、システム構築の検討が必要であります。

9 今後の予定・構想

- ・現在使用している機器は、使えるだけ使っていきたいが、老朽化により更新は避けられないのが現状であります。
- ・本町が導入してから9年経ち、様々な新たなシステムや警備会社等のサービスも出てきています。また、当時なかった（普及していなかった）IT技術であります。例えばクラウドやタブレット、スマートフォン、WIFIなど新しいIT技術の活用することなどを含めて、経費等削減やより効果的なシステム構築の検討が必要であります。

10 他団体へのアドバイス

- ・これからの時代、人ではできないことを、IT技術を使ってサービス提供すべきだと思います。
- ・システム導入には、小規模自治体の担当者だけでは、専門知識・情報が少なく、インターネットによる情報でも限界がありますので、複数市町村で情報共有・検討する場があればより効果的なシステム構築が図られると思います。
- ・小規模自治体では対象者が少なくてもシステムの構築費用がかかり、財政的な負担が多いことから、広域での複数市町村により導入することにより、構築・維持経費の削減が図られると思います。
- ・国・都道府県において、ITを活用した先進事例の紹介、一自治体だけの取組でなく、複数市町村で情報共有・検討ができる仕組みの構築を願いたい。

11 取組について記載したホームページ

- ・対象が高齢の高齢者がほとんどのためHPには、記載しておりません。